



乳幼児期に大切にしたいことは・・・

朝夕と日中の寒暖差が大きく、体調を崩す子が増えてきました。また、感染症の流行する時期でもあり、新型コロナウイルス、インフルエンザが同時に流行することも心配されます。より一層、気を引き締め、保育園、家庭での感染症予防対策を心がけましょう。

10月に行われた運動会では、早朝よりテントの設営など保護者の方にお手伝いをいただき、ありがとうございました。子どもたちは「こんなことができるようになったよ、みてみて」と自信を持って様ざまなことにチャレンジする姿を見せてくれました。おうちの人に応援してもらったり、認めてもらえることで「今度は逆上がりができるようになりたい」など次への意欲につながったと思います。

コロナ禍ではありますが、職員や園児、その家族が感染していないことを前提に、いろいろな配慮や工夫をしながら行事を行っています。行事を行うことは、保育園で子どもたちが生活やあそびの中でどんなことを学び、成長しているのかを保護者の方に実際に見て、感じていただける貴重な機会でもあります。

その機会に、自分のお子さんの成長を見るときも、他のクラスの子どもの姿にも目を向けると子どもの成長する姿がわかり、心にゆとりを持ちながら子育てを楽しめるのではないのでしょうか。「こんなことができなくてはいけない」と不安に思ったり、子どもたちに「こうしないと・・・」と求めて焦るのではなく、お子さんの今の姿をありのままに受け止め、子ども自身が考え、試し、それを周りの人に認めてもらうことで、心豊かに成長できるように支えてあげることが大切です。

さて、新園舎の開園から3週間が経ちました。新園舎は、子どもたちや職員にとって心地よく、安心できる場所となりつつあります。子どもたちの様子は様ざまですが、少しずつ落ち着いて自分のスペースを確認しながら身の回りの片付けをすすんでしたり、あそびを充実させているところです。

園庭で遊んでいる子どもたちに目を向けると、ダンボール板を持ち、芝山を登り、芝すべりを繰り返し遊んでいました。しばらくすると今度は、ダンボールの箱に友だちと二人で入り、滑ろうとしていましたが、ダンボール箱に入るのに時間がかかったり、滑り出すタイミングもふたりの息がなかなか合いません。子どもたちの「次はこうしてみよう。こうしたら楽しいんじゃない？」とワクワクしながらチャレンジしようとする姿、滑り終えた子どもたちの満足そうな笑顔を見て、次はどんなことを思いついてどんなふう遊ぶのだろうと期待する気持ちになりました。

大人との信頼関係がしっかり結ばれていること、自分の発想や行動を制限されず、思いのままに遊ぶことができる環境で過ごせることは、乳幼児期の子どもの発達に必要なことです。「思いのままに」とは、自分の好きなことを自由にするのではなく、そうする中には、ルールがあることや他者の思いに気づくことも必要です。「思いのままに」表現したり、遊ぶ子どもを見て、大人の意に添わないことがあっても、まず子どもがどんな気持ちで行動しているのかを理解して「だめ！」という否定の言葉ではなく、子どもの気持ちを汲み取りながら、言葉をかけ見守っていきたいですね。そうすることで、友だちと一緒に様ざまなあそびを選択しながら、主体的に学び育ち、生きる力を獲得していきます。

今月は秋も深まり、目に見えて季節の変化を感じるができます。自然豊かな小屋浦の町を散策したり、自然物を使って遊んだり、作ったり、子ども達と身体や心を柔軟に動かしながら楽しみたいと思います。

園長



新園舎
まんじゅう山
から撮影

園庭の芝山に
登ったりすべ
ったり・・・



お部屋の中でも
たのしいこと
いっぱい!



おねがい

表の門を子ども(園児・小学生)が開けるのを見かけることがあります。子どもたちの安全のために門は必ず大人が開閉して下さい。また、夕方園庭で長時間遊ぶと駐車場がいっぱいになる場合がありますので「また明日遊ぼうね」など声をかけてもらって帰宅して下さい。ご協力お願いします。

ありがとうございました

引越し際の荷物の運搬や保育園の畑の掘り起しなどを小屋浦の青年団の皆さま、保護者の方に手伝っていただき大変助かりました。子どもたちと野菜作りを楽しみたいと思います。



もん かなら おどろ
門は必ず大人が
かいてい
開閉してください。
えんじ あんぜん
園児の安全のために門を
しめてください。
開めてください。

